

『広報部の独り言』

今年度、広報部では「ニュース」「ともしび」「ホームページ」を通して、会員の皆様が行っている各種活動や委員会、協会の取り組みなどを「会員の皆様にいかに伝えていくか」を目標に、活動を行ってきました。10月には、130号のニュースを発行し、会員の活躍が一層周知することができたかなあと感じています。そこで、今回ニュースの発行について、良かった点、悪かった点を広報部員の皆さんに挙げてもらい、改善できることがないかを話し合いました。部員の考えをまとめ、次に繋げることができるよう取り組みを行っていきます。以下のやり取りは、その時の様子を逐語で掲載しています。この話し合いから、新たな取り組みを開始することにしましたので、「広報部の独り言」として、今回特集を掲載します。

部員 B 「今回のニュースは 8 ページでの構成になり、ボリュームも出て、内容も良かったですね。会員の活動に焦点が当てられて、読んで目を引くものが多かったですね。今後も、こうした企画を考えていく必要性を感じました」

部員 C 「研修、リレーフォーライフ、福島学院大学との交流など、SW が幅広い活動をしている様子を掲載することができたのでないかと考えています。今後は、こうした『会員の活躍を広報する』広報誌としての役割が、ニュースで担っていくこともできるのではないかと感じました。」

部員 D 「今回は、写真がいっぱいあったので、写真に目が引かれて文章を読んでみようかなと思わせる内容になったのではないかと思います。私は広報部員なので読みますし、関心も持つのですが、一般の会員の皆さんはニュースを本当に読んでいるのか、皆さんの役に立っているのかということを検証していく必要があるのではないかと感じています。『みんなに読んでもらっているのか』反応を聞く機会も少ないので、私たちには届かないことが多いですよね。だから、広報部員として自信がなくなる時があります。だから、インパクトがある記事やみんな読みたいなという内容を、今後も考えていく必要があると思います。」

部員 E 「様々な工夫をしてきている様子は写真などを増やしてことで効果は見えてきていると感じています。今後は、まだ入会していない人にも、ニュースを通して活動を知ってもらい、興味をもってもらえるツールになっていくのではないかと考えています。」

部員 F 「今回はニュースが届いて開いたときに、ボリュームがあるなと感じた。同じ事業所の人たちからも、『今回ボリュームがあるね』と反響がありました。意見として、写真がカラーだといういいねという感想もあった。繰り返し読んでいるのかなと考えると、ほとんどが読んではいないだろう。」

部員 G 「8 ページでのニュースはボリュームもあり、よかったと思う。写真が多いのは、

雰囲気伝わりやすいと感じた。伝えたいことが伝えられてきたと思う。今後は、みんなが読んでもらえる記事を提供していくことが大切になっていく。そのためにも、企画ものが必要だろう。」

部員 H 「ニュースを読み返すかという、今のままでは難しいですね。私自身も、正直一回読んだら終わりのところがある。やはり、目の引く企画があったりすると、続けて読もうとも思うし、重要なことがあれば、読み返しもあるだろうけど。」

部長 I 「まとめてみると、ニュースで訴えるところと、報告事項と、ニュースにはいろいろ役割があるということですね。ただ、届いたときに、目の引く企画やこちら側の発信したい明確な意図が必要になってくる。それがないと読んでいても、物足りないですね。内容も、読み返してもらえるように考えていかななくてはならない企画力が大切になってくるということですね。」

副会長 A 「制度が変わった時など、例えば診療報酬改定とかあった時に載せるといいかもしれないですね。改定があった時に、この加算どう工夫したら、算定ができるのだろうかとか、他の病院でどうしているのかなど、そして SW の立ち位置どうすればいいのかなど、色々な疑問が出ると思います。そういうことを特集すると、みんなが興味持てるのではないのでしょうか。内容をもっと考えていく必要があると思います。興味を持てるようなテーマを決めるのもいいのではないのでしょうか。そうすると、巻頭言も特集と統一され、伝えたいことがより明確になるのではないのでしょうか。」

部長 I 「例えば、今回は「発信」というテーマで記事を統一していくというのは、いいのではないかと思います。今日、色々聞いてみると、次号で会長対談を行って会員への発信を行っていく前振りとして、その次からは自分たちの行っていることが、会の発展につながっていくことを認識できるのではないのでしょうか。そのためにも、次は特別号で、若手の会員が『SW としての夢や可能性』を語ってもらい、会長対談みたいな感じで特集を組んでいくことで、今後各委員会等の展開になるように繋いでいくことができるようになると思いますね。」

副会長 A 「まず、部会ごとに行われていること、考えていることを会員に知ってもらうために、可視化していくことが必要ではないか。部会、方部と順々に『戯言（独り言）』として、会員に発信していく企画が良いのではないか。協会自体の情報公開をしていくことが、会員参加に繋がるのではないか。広報部が、こう考えているなんてことを言うことで、透明性も出せるようになり、活発になるのではないか。部会の情報公開をすることで、そこから続いていくと分かりやすいのではないか。」

部員 H 「そこに、会長対談も入れて、会長の考えていることと、例えば 3 年目くらいの会員がどういうことを考えているのかを突き合わせていくのがいいでしょうね。」

部長 I 「色々な意見が出ると思うので、まず聞いて、吸い上げていくことで、会への参加も促すきっかけになるのではないかと思います。」

副会長 A 「理事会で話し合われている議論をそのまま載せるのもいいかもしれない。そうすると、『こんなことが話し合われているのか』と若い人たちに理解をしてもらい易くなり、次期理事なんかを決める時にスムーズになるのではないか。」

部長 I 「そうすると、広報部、研修運営部・講師部、エイズ委員会が今考えていることや目指していること、実行しようとしていることを『～の独り言』として発信していくということですね。」

部員 F 「そうすると、部会・委員会からの『本当はこういうことが言いたいんだ』という本音が出てくるのではないかと思う。」

副会長 A 「毎回、特集を組んでいくと、ニュースの枚数がかなり増えることになる。これは問題ないのだろうか。」

部員 F 「長くなるだろうから、そしたら『続きはホームページへ』ということにしてみてもどうか。」

部員 B 「長くなるのであれば、ニュースはまとめたものにして、詳細は『続きはホームページへ』として、ホームページを見に来てもらうよう誘導する。こうすることで、ホームページで読み返すことができるし、いつでもアクセスできる利点を活かすことができるのではないか。」

副会長 A 「そうすると、まず始めは会長にお願いすることになるでしょうね。会長には【新春対談】として若い会員と対談してもらうことが良いでしょう。これをまとめて、ニュースには載せて、詳細を『続きはホームページへ』としておけば、一番残るし、ホームページを見に来た人の目にも留まるので良い方法ですね。」

部員 E 「『続きは…』となっていると、詳細を読みたくなりますよね。」

部長 I 「各部会で工夫していることって、沢山あると思います。発信したいと思っていることを、汲み取ってあげることが大切なのだと思います。」

部員 B 「そういう思いを残すと言う方法を、ホームページで有効に使ってもらうことはとてもいいですね」

副会長 A 「そして、会長に会員に向けたメッセージを対談形式で会員へ伝えてもらう。今回は、『広報部の独り言』として載せないと、会員の皆さんは理解できないところがあるだろうから。今後は、対談形式で、各委員会、理事会、方部など、先程でたように特集として、ニュースに取り上げていくのも面白いのではないか。」

部員 D 「まずは、広報部からこうした趣旨を今回の号外でみんなに伝えていくことで、理解を得ていくのがいいのではないかと思うのです。例えば、部会を行う時に録音して、『各部会の独り言』として掲載していくというのは、部会の動きが分かっていいのではないか。」

部員 C 「各委員会や部会で言いたいことは沢山あるのではないのでしょうか。伝えることって大切ですよね。」

部員 B 「協会員に伝えたいことはたくさんあるでしょうね。それぞれの立場で協会を支え

ていますからね。その活動を、皆さんに分かってもらうことは大切でしょうね。ぜひ、ホームページもそうした活動に使ってもらえると、有効だと思います。ぜひお願いします。」

今後も広報部では皆さんの活動を、よりスピーディに協会内外の皆様へ伝えることを大切に行っていく予定です。そこで、今後は各委員会、理事会、方部会などから今後の活動内容や展望をインタビューさせていただき、簡易版をニュースに掲載し、全文をホームページに掲載していきます。次号は、「1～3年目の会員に協会活動での夢」を語り合う場を作り、会長からもコメントをいただき、特別号として発行する計画です。今後とも、皆様のご協力をよろしく願いいたします。